

大学の世界展開力強化事業 構想概要 大阪大学

【構想の名称】(タイプA-II)

「アジア平和＝人間の安全保障大学連合」を通じた次世代高品位政策リーダーの育成。

【構想の概要】

日本と東南アジアの9大学が連携し、国連平和大学と提携しながら、歴史に学び、多様性を重んじ、共通課題に協力して取り組む精神と方法を学ぶ場の構築を通じて、地域社会ひいては地球社会の未来を担う政策リーダーを育成する。平和構築、社会開発、多文化共生、健康開発を重点テーマとする。

■ プログラムの目的・養成する人材像

高い理想、柔軟な発想、的確な知識、協調性

国際社会が直面する複雑で困難な諸問題＝紛争、貧困、差別、疾病等＝を克服するために、高い理想と柔軟な発想をもち、的確な知識を身につけ、隣人とともに手を携え、協力して取り組める次世代の有為な人材を養成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成

「アジア平和＝人間の安全保障大学連合」の形成

大阪大学国際公共政策研究科を主幹として、広島大学国際協力研究科、長崎大学国際健康開発研究科、名桜大学国際文化研究科、デ・ラ・サール大学、パヤップ大学、ナンヤン工科大学、シアークアラ大学、東ティモール国立大学が連合を組み、単位互換を含む大学間協定を結ぶ。カリキュラムについて国連平和大学と提携する。プログラムはメイン(1セメスター)とサブ(短期)、両方を行う「連結型」を用意する。

メイン・プログラム

1セメスター(6か月)の期間、日本の大学から東南アジアの大学へ、東南アジアの大学から日本の大学へ学生を相互に派遣し、それぞれの専門分野での交流を行う。いずれの場合も、フィールド調査、インターンシップ等、多彩な内容を盛り込むことが可能である。

サブ・プログラム

10日間の日本プログラムは東南アジアからの留学生を対象に日本で行い、平和と人間の安全保障をテーマとする理論学習と平和学習(広島・長崎・沖縄)を柱とする。2週間の東南アジアプログラムは日本の学生を対象に東南アジアの大学で行い、同様のテーマの下、各地の特徴をいかしたケーススタディー、フィールド・トリップを柱とする。いずれのプログラムでも学生自らが研究発表を行うワークショップで締めくくる。

(シアークアラ大学のある津波の被災地であり、長い間紛争地でもあったアチエのモスク)



■ 教育内容の可視化・成果の普及

ITネットワークを駆使した可視化・普及

日英両言語によるホームページの開設、成果の発表を行うオンライン・ジャーナルの発行、SNS(ソーシャルネットワークサービス)を利用した学生主体のコミュニケーション、ネットワーキングを目的とするセミナー、ワークショップ、シンポジウムの開催を通じて可視化・普及を図る。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入れを促進するための環境整備

日本人学生の派遣促進

東南アジアの大学との単位互換を含む大学間協定を締結する。各大学に平和＝人間の安全保障をテーマとする授業ないしはプログラムを開設し、英語教育の強化、東南アジア各言語の講習、フィールド調査のファシリテーション等を行う。

留学生の受入れ促進

上記の大学間協定に加え、受入れ大学での日本語教育の強化、チューター制度、フィールド調査、インターンシップ等の多様なニーズに対応できる留学生対応窓口の設置を行う。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

毎年、厳正な審査を経て、サブ・プログラムに12名、メイン・プログラムに8名を派遣する。

○ 留学生の受入れ

毎年、厳正な審査を経て、サブ・プログラムに10名、メイン・プログラムに10名を受け入れる。

(国立東ティモール大学を訪問した
2010年夏季ツアー)



	H23	H24	H25	H26	H27
派遣	12	20	20	20	20
受入れ	10	20	20	20	20

大学の世界展開力強化事業 取組実績 大阪大学

【構想の名称】(タイプA-Ⅱ)

「アジア平和＝人間の安全保障大学連合」を通じた次世代高品位政策リーダーの育成。

【プログラムの目的・養成する人材像】

国際社会が直面する複雑で困難な諸問題＝紛争、貧困、差別、疾病等＝を克服するために、高い理想と柔軟な発想をもち、的確な知識を身につけ、隣人とともに手を携え、協力して取り組める次世代の有為な人材を養成する。

【構想の概要】

日本と東南アジアの9大学が連携し、平和構築、平和共生、多文化共生、健康開発を重点テーマとしつつ、共通課題に協力して取り組む精神と方法を学ぶ場の構築を通じて、地域社会ひいては地球社会の未来を担う政策リーダーを育成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

〈キックオフ・シンポジウム、1月28日〉

大学間連携体制の構築

日本側(大阪大学・広島大学・長崎大学・名桜大学)担当者が、デ・ラ・サール大学、パヤップ大学、シアークアラ大学、東ティモール国立大学を訪問するとともに、左記4大学にナンヤン工科大学を加えた東南アジア5大学担当者が大阪大学と広島大学を訪問し、事業構想、協定などについて協議を行った。

また、日本側・東南アジア側全連携大学が集まって全体会議を実施し、併せてキックオフ・シンポジウムを開催することによって、連携体制を構築した。

さらに、日本側4大学は、「アジア平和と人間の安全保障大学コンソーシアム」の設立に向けて協議を重ね、準備を行った。



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈パヤップ大学での短期プログラム〉



サブ・プログラム(受入)

大阪大学にて、東南アジアから受け入れた学生を対象として、10日間の「平和と人間の安全保障に関する大阪短期プログラム」を実施した。また、同プログラムにおいては広島にて平和学習を行った。

サブ・プログラム(派遣)

パヤップ大学(タイ)にて、日本から派遣した学生を対象として、2週間の「平和と人間の安全保障に関するチェンマイ短期プログラム」を実施した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

日本人学生の派遣

厳正な審査を経て、日本の連携大学からサブ・プログラム(派遣)に6名を派遣した。(全派遣者数は16名。)

外国人留学生の受入れ

厳正な審査を経て、東南アジアの連携大学からサブ・プログラム(受入)に10名を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	6	20	20	20	20
学生の受入	10	20	20	20	20

注)H23は実績、H24以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

大阪大学が部局間協定を締結

大阪大学は、東南アジア4大学と先行して部局間学術協定を締結し、授業料不徴収、単位互換などを含めた学生交流に関する覚え書きを交わした。

留学生受け入れ態勢の充実

学習用関連書籍の購入、学生用コンピューターの増設、冬期の寒さ対策を行う等、受入態勢を充実させた。

運営事務局及びサブ・オフィスの設置

代表校である大阪大学に運営事務局を設置するとともに、国内連携大学2校にサブ・オフィスを設置し、留学受入・派遣サポート体制を構築した。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

キックオフ・シンポジウム、ホームページ

海外連携大学からのゲストを交え、キックオフ・シンポジウムを開催した他、事業のホームページを開設し、プログラムの普及を図った。

本事業ホームページ: <http://peace-hs.osipp.osaka-u.ac.jp/index.html>

大学の世界展開力強化事業 取組概要 大阪大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-Ⅱ))

「アジア平和＝人間の安全保障大学連合」を通じた次世代高品位政策リーダーの育成。

【プログラムの目的・養成する人材像】

国際社会が直面する複雑で困難な諸問題＝紛争、貧困、差別、疾病等＝を克服するために、高い理想と柔軟な発想をもち、的確な知識を身につけ、隣人とともに手を携え、協力して取り組める次世代の有為な人材を養成する。

【構想の概要】

日本と東南アジアの10大学が連携し、平和構築、平和共生、多文化共生、健康開発を重点テーマとしつつ、共通課題に協力して取り組む精神と方法を学ぶ場の構築を通じて、地域社会ひいては地球社会の未来を担う政策リーダーを育成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

大学間連携体制の構築

日本側(大阪大学・広島大学・長崎大学・名桜大学の各大学院・学部)が結成した「アジアの平和と人間の安全保障大学コンソーシアム」は、デ・ラ・サール大学、パヤップ大学、シアークアラ大学、東ティモール国立大学、ナンヤン工科大学、カンボジア・パンナサストラ大学の連携大学院・学部と学術交流協定・学生交流覚書を締結した。コンソーシアムの国内連携大学会議、それに海外の大学を加えた全体会議を開催し、加えて教員の相互訪問も行った。コスタリカにある平和大学(国連決議で設置)を訪問し、平和大学からもコンソーシアム訪問がなされ連携体制を構築した。

〈国内連携大学会議の様子〉



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈インドネシア・アチエの津波博物館で体験談を聞く〉



メイン・プログラム(受入)

9月末から東南アジア連携大学より派遣された留学生10名を、大阪大学、広島大学、名桜大学で半年間受け入れるセメスター日本プログラムを実施した。

メイン・プログラム(派遣)

受入大学のセメスター開始時期に合わせるかたちで、8月から10月にかけて、大阪大学、広島大学より合計10名の学生を4ヶ月から半年(受入大学の1学期間)派遣した。

サブ・プログラム(受入)

名桜大学にて、東南アジアから受け入れた学生を対象として、13日間の短期集中日本プログラムを実施した。また、同プログラムにおいては基地問題をはじめとする平和学習を行った。

サブ・プログラム(派遣)

シアークアラ大学(インドネシア)とカンボジア・パンナサストラ大学(カンボジア)にて、日本から派遣した学生を対象として、それぞれ10日間と7日間短期集中東南アジアプログラムを実施した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

日本人学生の派遣

厳正な審査を経て、日本の連携大学からメイン・プログラム(派遣)に8名(留学生も含む全派遣者数は10名)、サブ・プログラム(派遣)に12名(留学生も含む全派遣者数は18名)を派遣した。

外国人留学生の受入れ

厳正な審査を経て、東南アジアの連携大学からメイン・プログラム(受入)に10名、サブ・プログラム(受入)に12名を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	6(16)	20(28)	22	22	22
学生の受入	10	22	23	23	23

注)H23・H24は実績、H25以降は計画。

括弧内数字は全派遣者数。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

関連科目の設置、英語及び各国語指導、セミナー開催

日本側大学ではテーマに関する科目を設置(大阪大学高度副プログラム)、英語のインフォーマルな指導強化(イングリッシュカフェ)、派遣する学生へのインドネシア語・テトゥン語・クメール語の短期指導、テーマに即したセミナーの開催を行った。

事務局設置、留学生用ハウジング提供体制、授業の英語化

代表校に設置している運営事務局を強化するとともに、国内連携大学3校にサブ・オフィスを設置し、留学受入・派遣サポート体制を強化した。また、留学生用民間アパート短期契約の体制を構築し、一部授業の英語化を図った。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

英語ホームページの開設とfacebookページの開設

事業の英語ホームページを開設するとともに、facebookページの開設を行い、プログラム中にオンタイムで更新することによって事業の普及を図った。

ホームページ英語版(<http://peace-hs.osipp.osaka-u.ac.jp/index.html>)

facebook(<https://www.facebook.com/PAHSAcampus>)

大学の世界展開力強化事業 取組概要 大阪大学

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-Ⅱ))

「アジア平和＝人間の安全保障大学連合」を通じた次世代高品位政策リーダーの育成。

【プログラムの目的・養成する人材像】

国際社会が直面する複雑で困難な諸問題＝紛争、貧困、差別、疾病等＝を克服するために、高い理想と柔軟な発想をもち、的確な知識を身につけ、隣人とともに手を携え、協力して取り組める次世代の有為な人材を養成する。

【構想の概要】

日本と東南アジアの10大学が連携し、平和構築、平和共生、多文化共生、健康開発を重点テーマとしつつ、共通課題に協力して取り組む精神と方法を学ぶ場の構築を通じて、地域社会ひいては地球社会の未来を担う政策リーダーを育成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

大学間連携体制の構築

日本側(大阪大学・広島大学・長崎大学・名桜大学の各大学院・学部)が結成した「アジアの平和と人間の安全保障大学コンソーシアム」は、デ・ラ・サール大学、パヤップ大学、シアークアラ大学、東ティモール国立大学、ナンヤン工科大学、カンボジア・パンナストラ大学、チェンマイ大学の連携大学院・学部と学術交流協定・学生交流覚書を締結した。コンソーシアムの国内連携大学会議を開催し、加えて海外連携大学と教員の相互訪問も行った。

(メイン・プログラム(受入)の最終プレゼンテーションの様子)



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

メイン・プログラム(受入)

9月末から東南アジア連携大学より派遣された留学生12名を、大阪大学、広島大学、名桜大学で半年間受け入れるセメスター日本プログラムを実施した。

メイン・プログラム(派遣)

受入大学のセメスター開始時期に合わせるかたちで、8月から10月にかけて、大阪大学、広島大学、長崎大学、名桜大学より合計10名の学生を4ヶ月から8ヶ月間(受入大学の1学期間)派遣した。

サブ・プログラム(受入)

広島大学にて、東南アジアから受け入れた学生を対象として、10日間の短期集中日本プログラムを実施した。また、同プログラムにおいては原爆問題をはじめとする平和学習を行った。

サブ・プログラム(派遣)

デ・ラ・サール大学(フィリピン)にて、日本から派遣した学生を対象として11日間の短期集中東南アジアプログラムを実施した。

(デ・ラ・サール大学の屋上で)



■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

日本人学生の派遣

厳正な審査を経て、日本の連携大学からメイン・プログラム(派遣)に10名(内留学生は1名)、サブ・プログラム(派遣)に13名(内留学生は2名、他連携大学以外の学生1名)を派遣した。

外国人留学生の受入れ

厳正な審査を経て、東南アジアの連携大学からメイン・プログラム(受入)に12名、サブ・プログラム(受入)に12名を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	16	28	23	22	22
学生の受入	10	22	24	23	23

注)H23～H25は実績、H26以降は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

関連科目の設置、英語及び各国語指導、セミナー開催

日本側大学ではテーマに関する科目を設置(大阪大学高度副プログラム)、英語のインフォーマルな指導強化(イングリッシュカフェ、ライティング・ワークショップ)、派遣する学生へのインドネシア語・テトウン語・タイ語の短期指導、テーマに即したセミナーの開催を行った。

事務局設置、留学生用ハウジング提供体制、授業の英語化

代表校に設置している運営事務局を強化するとともに、国内連携大学3校にサブ・オフィスを設置し、留学受入・派遣サポート体制を強化した。また、留学生用民間アパート短期契約の体制を構築し、一部授業の英語化を図った。

■ 教育内容の可視化・成果の普及

英語ホームページの開設とfacebookページの開設

事業の英語ホームページを開設するとともに、facebookページの開設を行い、プログラム中にオンタイムで更新することによって事業の普及を図った。

ホームページ英語版(<http://peace-hs.osipp.osaka-u.ac.jp/index.html>)

facebook (<https://www.facebook.com/PAHSAcampus>)

大学の世界展開力強化事業 H26取組概要 大阪大学(代表校)

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-Ⅱ))

「アジア平和＝人間の安全保障大学連合」を通じた次世代高品位政策リーダーの育成

【プログラムの目的・養成する人材像】

国際社会が直面する複雑で困難な諸問題一紛争、貧困、差別、疾病等一を克服するために、高い理想と柔軟な発想をもち、的確な知識を身につけ、隣人とともに手を携え、協力して取り組める次世代の有為な人材を養成する。

【構想の概要】

日本と東南アジアの10大学が連携し、平和構築、平和共生、多文化共生、健康開発を重点テーマとしつつ、共通課題に協力して取り組む精神と方法を学ぶ場の構築を通じて、地域社会ひいては地球社会の未来を担う政策リーダーを育成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

大学間連携体制の構築

日本側(大阪大学・広島大学・長崎大学・名桜大学の各大学院・学部)が結成した「アジアの平和と人間の安全保障大学コンソーシアム」は、デ・ラ・サール大学、パヤップ大学、シアークアラ大学、東ティモール国立大学、ナンヤン工科大学、カンボジア・パンナストラ大学、チェンマイ大学の連携大学院・学部と学術交流協定・学生交流覚書を締結した。コンソーシアムの国内連携大学会議を開催し、加えて海外連携大学と教員の相互訪問も行った。

テレビ会議システムを利用した共同講義の実施

大阪大学、広島大学、チェンマイ大学の3大学で、テレビ会議システムを利用して共同でリレー講義を実施した。

〈ASEANジョブ・フェアの様子〉



■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈チェンマイ大学の構内にて〉



メイン・プログラム(受入/派遣)

東南アジア連携大学からの留学生12名を、大阪大学、広島大学、名桜大学で半年間受け入れる semester 日本プログラムと、海外連携6大学へ大阪大学、広島大学、長崎大学、名桜大学より合計9名の学生を4ヶ月から8ヶ月間(受入大学の1学期間)派遣した。

サブ・プログラム(受入/派遣)

長崎大学にて、東南アジアの学生12名を対象として、11日間の短期集中日本プログラムを実施した。また、チェンマイ大学で日本側4大学所属学生15名を対象に9日間のプログラムを実施した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

厳正な審査を経て、日本の連携大学からメイン・プログラム(派遣)に9名(内留学生は2名)、サブ・プログラム(派遣)に15名(内留学生は5名)を派遣した。

○ 外国人留学生の受入れ

厳正な審査を経て、東南アジアの連携大学からメイン・プログラム(受入)に12名、サブ・プログラム(受入)に12名を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	16	29	23	24	22
学生の受入	10	22	24	24	23

◆注)H23～H25は実績、H27は計画。

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

関連科目の設置、英語及び各国語指導、セミナー開催

日本側大学ではテーマに関する科目を設置(大阪大学高度副プログラム)、英語のインフォーマルな指導強化(イングリッシュカフェ、ライティング・ワークショップ)、派遣する学生へのインドネシア語・テトゥン語・タイ語の短期指導、テーマに即したセミナーの開催を行った。

事務局設置、留学生用ハウジング提供体制、授業の英語化

代表校に設置している運営事務局を強化するとともに、国内連携大学3校にサブ・オフィスを設置し、留学受入・派遣サポート体制を強化した。また、留学生用民間アパート短期契約の体制を構築し、一部授業の英語化を図った。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

英語ホームページの開設とfacebookページの開設

事業の英語ホームページとfacebookアカウントを継続しており、プログラム中にオンタイムで更新することによって事業の普及を図った。また成果報告の一環としてプログラムで留学した学生のエッセーを掲載している。

ホームページ英語版(<http://peace-hs.osipp.osaka-u.ac.jp/index.html>)

facebook(<https://www.facebook.com/PAHSAcampus>)

大学の世界展開力強化事業 H27取組概要 大阪大学(代表校)

【構想の名称】(選定年度23年度(タイプA-Ⅱ))

「アジア平和＝人間の安全保障大学連合」を通じた次世代高品位政策リーダーの育成

【プログラムの目的・養成する人材像】

国際社会が直面する複雑で困難な諸問題一紛争、貧困、差別、疾病等一を克服するために、高い理想と柔軟な発想をもち、的確な知識を身につけ、隣人とともに手を携え、協力して取り組める次世代の有為な人材を養成する。

【構想の概要】

日本と東南アジアの10大学が連携し、平和構築、平和共生、多文化共生、健康開発を重点テーマとしつつ、共通課題に協力して取り組む精神と方法を学ぶ場の構築を通じて、地域社会ひいては地球社会の未来を担う政策リーダーを育成する。

■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

大学間連携体制の構築

日本側(大阪大学・広島大学・長崎大学・名桜大学の各大学院・学部)が結成した「アジアの平和と人間の安全保障大学コンソーシアム」は、デ・ラ・サール大学、パヤップ大学、シアー・クアラ大学、東ティモール国立大学、ナンヤン工科大学、カンボジア・パンナサストラ大学、チェンマイ大学の連携大学院・学部と学術交流協定・学生交流覚書を締結した。コンソーシアムの国内連携大学会議を開催し、加えて海外連携大学と教員の相互訪問も行った。

〈セメスタープログラムで来日した学生たちの合同成果発表会。教員も集合。〉



テレビ会議システムを利用した共同講義の実施

大阪大学、広島大学、チェンマイ大学の3大学に加え、H27年度はデ・ラ・サール大学も一部参加し、テレビ会議システムを利用して共同でリレー講義を実施した。

■ 実施した交流プログラムの概要、今後の開始に向けた準備状況

〈カンボジアでのサブ・プログラム中、民間児童養護施設で一緒に昼食をとる。〉



メイン・プログラム(受入/派遣)

東南アジア連携大学からの留学生11名を、大阪大学・広島大学・名桜大学で半年間受け入れ、海外連携6大学へ大阪大学・広島大学・長崎大学・名桜大学より合計9名の学生を4ヶ月から8ヶ月間(受入大学の1学期間)派遣した。

サブ・プログラム(受入/派遣)

大阪大学にて、東南アジアの学生11名を対象として、9日間の短期集中日本プログラムを実施した。また、パンナサストラ大学で日本側3大学所属学生10名を対象に8日間のプログラムを実施した。

■ 交流プログラムにおける学生のモビリティ

○ 日本人学生の派遣

厳正な審査を経て、日本の連携大学からメイン・プログラム(派遣)に9名(内留学生は3名)、サブ・プログラム(派遣)に10名(内留学生は4名)を派遣した。

○ 外国人留学生の受入れ

厳正な審査を経て、東南アジアの連携大学からメイン・プログラム(受入)に11名、サブ・プログラム(受入)に11名を受け入れた。

	H23	H24	H25	H26	H27
学生の派遣	16	29	23	24	19
学生の受入	10	22	24	24	22

■ 日本人学生の派遣・留学生の受入を促進するための環境整備

連携大学教員による招へい講義・セミナー・説明会、英語力強化、特殊語学指導

デ・ラ・サール大学、ナンヤン工科大学・パンナサストラ大学教員を招へいしての集中講義及びセミナー、留学説明会を開催し、東南アジア留学への関心を喚起した他、英語指導(イングリッシュカフェ)、英語添削指導、テトウン語(東ティモール)指導を行った。

授業の英語化、教務事務の英語化、留学生ハウジング提供体制、チューター制度

代表校の運営事務局、連携大学のサブ・オフィスを継続運営し、授業のさらなる英語化、教務事務の英語化(英語時間割の作成等)、留学生用民間アパート短期契約の促進を図った。また、留学生にはチューターを配置した。

■ 構想の実施に伴う大学の国際化の状況、情報の公開・成果の普及

ダブルディグリー、英語カリキュラムによる研究科への発展、留学生の増大、英語ホームページやfacebookによる情報発信

大阪大学ではデ・ラ・サール大学とのダブルディグリープログラムを開始した。長崎大学では英語カリキュラムによる新研究科へと発展し、大阪大学では参加研究科の留学生の割合が過去4年で10ポイント上昇した。プログラムの進捗や参加学生の声を英語ホームページやfacebookを通じて発信した。